

県指定有形文化財の指定

種別	彫刻の部		
名称	どうぞうびしゃもんてんりゅうざう 銅造毘沙門天立像	員数	一躯
所有者	宗教法人法音寺（米沢市御廟一丁目5-3）		
所在地	同上		
特色	<p>左手は振り上げて戟を持ち、右手は曲げて掌を腰にあてて邪鬼の上に立つ鎌倉時代前期の毘沙門天像。銅による鑄造で、前後合わせ型によると思われる。邪鬼は別に鑄造されており、現在は固定されているが足柄※1で挿す。</p> <p>法量は、総高（髻頂－邪鬼下）41.5 cm、像高（髻頂－左足）33.7 cm。</p> <p>もともと春日山城（新潟県上越市）本丸北側にあった毘沙門堂の本尊とされ、上杉謙信が深く信仰したという。上杉家の米沢転封後は、米沢城内本丸東南隅の御堂に安置され、善光寺如来尊や歴代藩主の位牌等とともに祀られた。明治9年（1876）、謙信の遺骸が現在の御廟所（国指定史跡「米沢藩主上杉家墓所」）に移されたのに伴い、本像も法音寺に遷座された。</p> <p>なお、嘉永2（1849）12月の御堂の火災によって本像も罹災しており、一部破損した箇所は昭和3年（1928）に高村光雲によって修理されている。</p>		
指定の意義	<p>本像は頭部が小さく、肩幅が広く、胸が厚く、腰を引き締め、さらに腰が太いという、鎌倉時代前期の慶派※2の作風をよく表している。また、適度に筋肉を表した引き締まった表現も、慶派の作品に通ずる特徴である。魚々子鑿※3による甲の細かな文様表現も丁寧で、鎌倉時代前期の銅像の優品と言え、製作優秀で彫刻史上価値が高い。</p>		



※1 足柄：仏像などの立像を台座上に安定させるための像の足裏の突き出た部分。

※2 慶派：平安時代末期から江戸時代の仏師の一派。

※3 魚々子鑿：彫刻の技法の一種。金属の面に小さな粒を一面に刻んだ細工。